

第5分科会 研究課題「教職員の専門性に関する課題」

研究主題「教職員の ICT 活用能力を高めるために教頭の関わりはどうあればよいか」
～「協調学習や協働的な学び」における ICT の効果的な活用を目指して～

延岡市教頭会 2 班

1 主題設定の理由

文部科学省が掲げる「新たな教育振興基本計画」の中で、今後の教育政策に関する基本的な方針の一つに「教育デジタルトランスフォーメーションの推進」が示され、GIGA スクール構想の取組が一層加速していくことが予想される。これを受けて延岡市では令和 2 年度から GIGA スクール構想の具現化が図られ、一人一台の端末が配置されている。

延岡市「わかあゆ教育プラン」では目指す子ども像を「幸動～自他の幸せのために学び行動する子ども」とし、重点取組の中に「知的構成型ジグソー法を活用した協調学習の充実」と「ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進」を挙げている。また、宮崎県教育委員会は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善によって、生徒たちの学びに向かう力を育み、誰一人取り残さず、育てていく学びの方向性を「ひなたの学び」として整理している。さらに「学校教育情報化ハンドブック（延岡市教育委員会）」には ICT 活用における学校と行政の役割、市が目指す方向性、育てたい児童生徒の姿、教職員の ICT 利活用ステップ等が示されている。

ICT の活用の目的は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善にあり、活用環境もある程度整い、全職員が参加する研究授業や校務における ICT 活用研修も多種多様に開催されている。しかし、各学校における授業改善と ICT の効果的な活用状況については、これまで、職員構成や学校規模に応じた効果的な活用の在り方を各学校が現場の努力で模索している状況である。特に時間や空間を共有する場面（「協働的な学び」の場面）が、ICT 活用により効果が減少しているのではないかという懸念がある。

そこで本研究では、まず延岡市内中学校において、協働的な学びにおける ICT を活用した授業改善の状況を把握し、教頭会で情報共有を行う。それぞれの学校において状況が異なるため、共通理解を導き出すことは困難と思われるが、

教頭間で各学校の協働的な学びにおける ICT 活用状況について情報交換・分析を行い、それぞれの学校に適した効果的な具体策を講じることで効果的な ICT 活用が実践され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善によって生徒の学びに向かう力を育むことにもつながると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

教頭が市内各中学校の ICT 活用状況を把握し、ICT の効果的な活用に関する方向性を示す。さらに組織を動かすことで、教職員の ICT 活用指導力を高めるとともに、協働的な学びにおける効果的な ICT 活用が実践され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が行われる。

3 研究の概要

(1) 令和 6 年度全国学力・学習状況調査（学校質問結果）の比較

① アンケート結果（本市中学校回答の集計）

1 ほぼ毎日 2 週1回以上 3 週1回以上 4 月1回以上 5 月1回未満 6 実施しなかった (7 該当なし)						
番号	質問事項					
	1	2	3	4	5	6
(60)	これまでに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか					
本市中学	23.1	53.8	23.1	0.0	0.0	0.0
本県	69.5	21.1	8.6	0.0	0.8	
全国	67.5	23.3	7.7	1.2	0.2	
(61)	生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか					
本市中学	13.3	33.3	33.3	20.0	0.0	0.0
本県	19.5	43.0	28.1	8.6	0.8	
全国	33.0	37.4	23.1	6.0	0.5	
(62)	生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか					
本市中学	6.7	26.7	33.3	33.3	0.0	0.0
本県	12.5	32.8	34.4	18.8	1.6	
全国	19.4	32.5	30.2	15.5	2.3	
(63)	教職員と生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか					
本市中学	13.3	26.7	33.3	13.3	13.3	0.0
本県	21.9	32.0	27.3	13.3	4.7	
全国	31.1	26.3	24.4	11.8	6.3	

(64)	生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか					
本市中学	0.0	26.7	33.3	20.0	20.0	0.0
本県	8.6	24.2	28.1	22.7	16.4	
全国	16.9	24.2	28.5	16.4	13.8	
(65)	生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか					
本市中学	6.7	20.0	33.3	40.0	0.0	0.0
本県	8.6	28.9	34.4	19.5	8.6	
全国	14.8	27.4	31.8	17.8	8.0	
(66)	これまでに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか					
本市中学	0.0	13.3	0.0	20.0	26.7	40.0
本県	0.8	3.1	10.2	12.5	25.0	48.4

② 本市の状況（結果分析より）

(60)～(64)のスコアが県・全国に比べて低い。一人一台の同種のタブレット端末の整備が遅れ、活用状況が低い原因だと考えられる。9月以降に、同種のタブレットが各学校に一人一台整備されることで、日常的に活用されるようになり、改善されると思われる。また、本市では、在籍する学校に登校することができない児童生徒の学びの場として、「ICTを活用したオンライン学習支援室（のべおかつながるオンライン）」を設置している。児童生徒のそれぞれの状況に応じた学びを継続できるように学校外の施設を準備していることが、(66)の高スコアに表れている。

本市では生徒がICTを活用する授業改善を推進しており、思考を伴う協働的な学びを支援する協働学習支援ツール「ロイロノート」と個別最適な学びを支援するドリル学習ツール「キュビナ」を全学校に整備している。全学校で使用しているが、使用できる職員の割合や活用状況については各学校で差がある。



(2) 協働的な学びにおける ICT 活用状況

① アンケート結果（本市中学教職員180名）

4 よく行った 3 どちらかといえば、行った 2 あまり行かなかった 1 全く行かなかった				
	4	3	2	1
1 グループや学級全体での発表や話し合いなどでICTを活用していますか。	12.8	29.4	47.8	10.0
2 複数の意見・考えを議論して整理するなど協働での意見整理でICTを活用していますか。	7.8	28.3	50.6	13.3
3 グループでの分担・協働による作品の制作など協働制作でICTを活用していますか。	10.0	26.1	45.0	18.9
4 遠隔地や海外の学校等との交流授業など学校の壁を越えた学習でICTを活用していますか。	1.7	7.8	14.4	76.1

② 本市の状況（結果分析より）

全項目において、「4」「3」の肯定的な回答が過半数未満にとどまっている。

本市が推奨している協調学習は、「複数の人物がグループを構成し、それぞれの学習を助け合いながら意見を交換し、目標を達成する学習法」である。協力し合って学習するという点が最大の特徴であり、ICTの効果的な活用により、グループのメンバー同士で質問をしたり話し合いをしたりして、学習を進めていくことが望まれる。

4 成果（効果的な実践の情報共有）

- ・ ロイロノートを活用した意見交換（生徒の多様な考えを知る時に利用）
- ・ Google スライドでプレゼンを協働で編集し、教師が進捗状況を見ながら指導
- ・ Classroom を使って単元をまとめる場面などの協働
- ・ 技能教科（体育等）での自他の動画撮影を利用した振り返りや協議
- ・ Classroom 内のストリームや Slido アプリを用いた振り返りの共有化
- ・ Google Form を使った授業で、振り返る場面での協働

5 今後の課題

- ・ 職員対象の研修会の時間の計画的な確保
- ・ 協働的な学びに有効なアプリやソフトの情報を共有
- ・ ICT支援員の積極的な活用